

## 子どもと食べ物 - その2 -

1. 子どもの食事マナー ○上杉 賢士(千葉大附小) 上橋 稔(猿樂小)

2. 食事行動の文化 ○島山 滋(千葉大大学院) 高橋 美恵(千葉県教育セン) 横井 富美子(東洋大大学院)  
青藤 裕子(お茶大大学院)

3. 母親のライフスタイルとの関連で ○田中 雅文(三井情報開発) 深谷 昌志(奈良教育大) 深谷 和子(東京学芸大)

### 1. 子どもの食事マナー

#### テーマ設定

食事の作法や様式は親が子へと受けつがれていくものであり、その作法やマナーはそれぞれの時代背景に対応して取捨選択されていくものであろう。そこにはその時代の価値観が大きく作用しているはずである。

親は自分のうけてきたしつけをどのように子どもに伝えようとしているのか。また子どもはそれをどのように受けとめ、食事のマナーを身につけているのか。親と子の結果を比べ、しつけの効果を探ってみたい。

#### 調査票の構成

調査票は親用と子ども用にわかれており、親にはかつて親からうけたしつけ、子どもに付たえたしつけを、そして子どもには食事のとき気をつけていること、食事マナーについての意見などをたずねている。

#### 調査方法

対象は東京、千葉の小学生1200名、その親600名。実施は昭和57年6月。結果は当日配布。

### 2. 食事行動の文化

ここでは食事の中<sup>身</sup>から離れ、主に食事の準備・後片付けといった食事の周辺部に焦点をあて、そこでの家族員の地位や役割について検討する。すなわち、食事の食べ方にどんなスタイルがとられているか、家族構成のあり方によってそのスタイルがどのように変化するのか、を明らかにする。

調査は二つからなり、子どもと親(母親)に同じ項目をたずね、母親には本人の両親の食事スタイルについても回答してもらい、世代間の行動や意識の差を探る。

主な調査項目は、献立を決定する規準、家族員間での献立の差異、父親や子どもの食事の準備・後片付けへの参加度、食事中のコミュニケーションなど。結果は当日配布する。

### 3. 母親のライフスタイルとの関連で

現代の母親の生活は従来の育児、炊事などの家事中心型から就業、地域活動、レジャー活動などを含んだ多様なものへと移行しつつある。一方、冷凍食品、総菜物といった加工食品の普及やファミリーレストラン、ファーストフード店に代表される食生活関連のサービス産業の発達にともない、家庭での料理の手間はかなりの程度まで、省くことが可能となっている。

したがって、ここでは母親の家庭外活動への参加と「食」生活の楽しみ方が、炊事に対する態度、料理の手伝い度、調理方法の多様性などどのように結びついているか、を分析する。

主な調査項目は次のとおりである。

- レジャー活動への参加度
- 家庭生活に占める炊事行動の比重
- 料理技術向上への意欲
- 食生活を楽しむ度合
- 各種加工食品の利用度

結果は当日配布